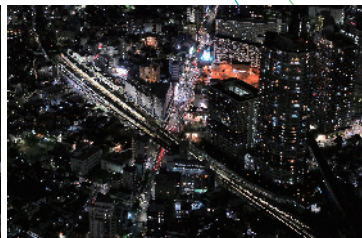
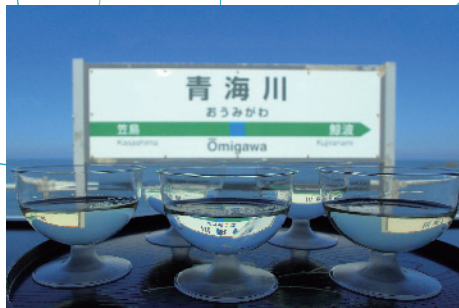
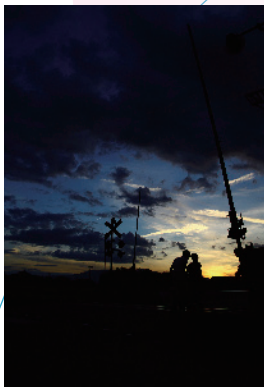


TAMRON

株主通信

第72期 報告書



2018年1月1日



2018年12月31日

Contents

| | |
|----------------|-------|
| 株主の皆様へ | 2 |
| 特集／中期経営計画と進捗状況 | 3-4 |
| ガバナンス向上への取り組み | 5 |
| タムロンのものでづくり | 6 |
| トピックス | 7-8 |
| 連結財務ハイライト | 9 |
| 連結財務諸表 | 10 |
| セグメント別事業の概況 | 11-12 |
| フォトコンテスト開催報告 | 13 |
| 会社情報 | 14 |



株主の皆様へ

2期連続増収増益、過去最高の売上総利益率を達成いたしました。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 当社第72期(2018年1月1日～2018年12月31日)の営業概要について、ご報告申し上げます。

当期における市場環境は、デジタルカメラ市場においてミラーレスへのシフトが一段と加速して、ミラーレスが好調に推移しましたが、一眼レフが減少し、レンズ交換式カメラ全体の台数は前期比8%減となりました。交換レンズは台数が前期比6%減となりましたが、高画質フルサイズ用が堅調に推移したことにより、金額ベースでは前期比1%増となりました。コンパクトデジタルカメラの台数は前期比35%減と大幅な減少となりました。一方、監視カメラ市場や車載カメラ市場の成長は継続しました。

このような状況の下、当社グループの当期における経営成績は、全てのセグメントにおいて増収を達成しました。売上高は618億15百万円(前期比2.2%増)となりました。

自社ブランド交換レンズの新製品投入効果等により2期連続で過去最高となる売上総利益率を更新したことに加えて、販管費を微増に抑制したことにより、営業利益は54億24百万円(前期比27.7%増)、経常利益は58億77百万円(前期比43.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は43億30百万円(前期比52.5%増)となり、2期連続増収増益、かつ収益性の大幅な改善を達成しました。

配当金について 第72期の期末配当金につきましては、1株当たり期末普通配当金を35円とさせていただきます。これにより、既にお支払済みの中間配当金25円と合わせ、当期の1株当たり年間配当金は60円となり、配当性向は35.8%となりました。記念配当を除く普通配当金としては過去最高の配当額となります。

次期の見通し 自社ブランド交換レンズにおいて、ミラーレスカメラへのシフトが進む市場環境を踏まえ、ミラーレスカメラ用のラインナップ拡充を加速していきます。また、ドローン、車載、監視やFA市場向けにおいて高付加価値の製品投入および新規受注獲得を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

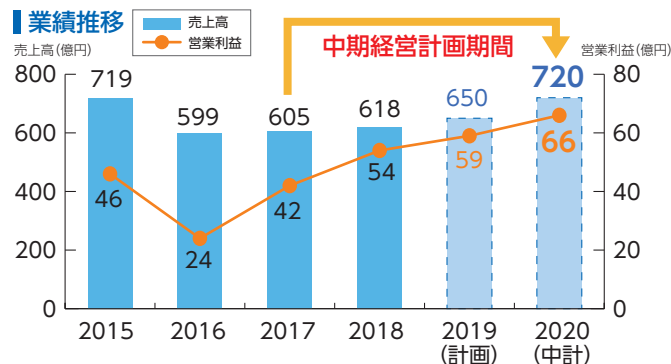


代表取締役社長 鯨坂 司郎

特集 中期経営計画と進捗状況

当社では、2020年を最終年とする中期経営計画として、2017年実績を起点とし、売上高で100億円以上の増収となる720億円、営業利益は1.5倍以上となる66億円、そしてROE9%以上への向上を掲げています。1年目である2018年の進捗と今後の見通しについてご紹介します。

| 中期経営計画(2018年2月公表) | | | 1年目進捗 | | 2年目計画 |
|-------------------|---------|-----------|-----------|---------|---------|
| | 2017年実績 | 2020年中期計画 | 2018年期中計画 | 2018年実績 | 2019年計画 |
| 売上高 | 605億円 | 720億円 | 630億円 | 618億円 | 650億円 |
| 営業利益 | 42億円 | 66億円 | 48億円 | 54億円 | 59億円 |
| 営業利益率 | 7.0% | 9.2% | 7.6% | 8.8% | 9.1% |
| ROE | 5.8% | 9%以上 | 6.6% | 8.6% | 7.9% |



中期計画達成に向け、着実な進捗

- 1年目は売上未達も、収益性の改善は想定以上に進捗
- 2年目は、収益性を確保しつつ、売上の拡大を図る

4期連続増収増益で中期計画を達成へ

(中計期間中は増収増益継続が基本的な考え方)

1年目の2018年は、売上高は計画未達に終わったものの、営業利益54億円、営業利益率8.8%と、利益面では当初計画を大きく上回る成果を出すことができました。

中期経営計画では、産業向け等の新規分野での売上高拡大と、中核事業の収益性改善を柱としていますが、2018年は中核事業の収益性改善を想定以上に進められたと感じています。

成熟期であるデジタルカメラ分野では中核事業として収益性向上を優先し、当社収益基盤を強固にすることを掲げていますが、2018年の進捗としては、写真関連事業は15%以上の高い営業利

益率となり、全社の利益率向上に大いに貢献しました。またその他の事業では、2018年は車載用で計画以上の売上高を達成したことに加え、ドローン用が年間10億円以上の売上規模にまで育ってきました。さらには、監視/FA用ではカメラモジュールビジネスが本格的に立ち上がってきました。

2年目となる2019年は、これら2018年の各分野での成果を、更に大きな成果へとつなげ、収益性改善傾向を維持しつつ、もう一つの柱である産業分野での売上高拡大を図ります。そして、2020年の4期連続増収増益による中期経営計画達成を目指します。

タムロンでは企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指して、CSRに取り組んできました。2018年からは、より中長期的に社会課題への取り組みを推進するため、CSR重要課題を特定して、活動を強化しています。

CSR重要課題



◆環境・社会への主な取り組み

| | 主な項目 | 詳細 |
|--------|--|--|
| 環境 | ・CO ₂ 、廃棄物、水利用量の削減 ・環境配慮設計、部材のリサイクル化 | ・太陽光発電の導入<2017年・2018年> ・空調・照明、生産設備等の省エネ化 ・プラスチック部品のリサイクル、有害化学物質削減 ・サプライチェーンにおけるCO ₂ 排出量の把握 |
| 顧客 | ・顧客満足度の向上 ・サービスの充実 | ・グローバルでの修理3日間体制構築 ・安全で高品質な商品の提供 |
| 取引先 | ・CSR調達 ・グリーン調達 | ・お取引先のCSR取り組み調査の実施 ・リスク懸念のあるお取引先の改善活動 |
| 社会 | ・写真/映像文化や地域の発展貢献活動 ・障がい者アスリート支援 | ・各種写真コンテスト等の継続実施 ・近隣学校への出前授業の継続実施 |
| 株主・投資家 | ・株主権利確保・権利行使の環境整備 ・タイムリーかつ公平・積極的な情報発信 | ・招集通知の英訳<2017年> ・電子投票・議決権PFの利用<2018年> ・決算発表同日の説明会開催、内容開示<2018年> |
| 従業員 | ・働きやすい職場環境の整備 ・ワークライフバランス、ダイバーシティの推進 ・現地人の積極登用 | ・ノー残業デーの継続実施 ・育児休業取得率100%(育児休業等の拡充) ・女性管理職比率 10%超(2012年 約5%) ・現地法人9社のうち、現地人トップは8社 |

国連グローバルコンパクト参画

・2007年から参画。

企業内保育園「タムロンキッズ保育園」

- ・地域の方々のご利用枠も設け、園庭開放等、地域社会にも貢献。
- ・看護師が常駐し、病児保育にも対応。
- ・小規模型事業所内保育事業所として認可。



子育てサポート企業「くるみん」マーク取得

※「次世代育成支援対策推進法」に基づく認定

「多様な働き方実践企業」の最高位「プラチナ+」企業に認定

※埼玉県による認定



ガバナンス向上への取り組み

当社はここ数年間でコーポレートガバナンスの体制・実効性の向上を推進してきました。その主な取り組みについてご紹介するとともに、昨年、当社としては初の女性役員として就任した社外取締役の片桐氏に、率直なご意見をお聞きいたしました。

| | 主な項目 | 詳細 |
|------|---|---|
| 統治機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 透明性・公平性・客観性の向上 ・ 任意の委員会等の積極活用 ・ コーポレートガバナンス・コードへの積極対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指名委員会、報酬委員会を設置<2016年> (社外取締役が委員長。社外役員が半数以上) ・ コーポレートガバナンス・コード全原則をコンプライ<2018年> ・ ガバナンスガイドラインを制定<2018年> |
| 役員構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 取締役構成の多様化 ・ 取締役構成のスリム化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人1名選任<2016年>(他、外国人執行役員2名) ・ 女性1名選任<2018年>(他、女性執行役員2名) ・ 取締役15名⇒12名へ20%減<2018年> |
| 報酬 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 役員報酬体系の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期業績連動の株式報酬制度導入<2018年> |

社外取締役インタビュー

リスクマネジメントを通じ、持続的な企業価値向上に取り組んでいきます。

—企業風土についてはどのように感じていますか？

公認会計士として様々な業種・企業を見てきた経験から、就任前から堅実な企業だろうという印象は持っていました。就任後よく知るにつれ、光学技術にとことんこだわった、個性的な企業だということがわかりました。

—コーポレートガバナンス体制についてはどう評価していますか？

取締役会だけでなく、経営会議にも参加していますが、鯉坂社長をはじめ、取締役の方々のしっかりしたリーダーシップのもと、執行側のチームワークのよい動きが感じられます。我々社外役員からの意見をきちんと受け止め、前向きな議論がなされていると感じています。

—タムロンに期待することは？

タムロングループとそれを取り巻く供給・販売網には、様々な個性・高い専門性をもった方々が国内外にたくさんいますので、そういった個性を引き出し、さらなる技術革新とグローバル展開の強化につなげていくことを期待します。

—ご自身が果たしていきたい役割はどのようにお考えでしょうか？

企業は、マイナスの影響をもたらすリスクは未然防止を図る必要がありますが、成長するためにはリスクを取ってリターンを得なければなりません。したがって、持続的に企業価値を上げるためには、企業が健全なリスク感覚を保持し続けることが重要だと思います。

私は、健全なリスク感覚の保持を支え、外部の目でリスクマネジメントに関与していくことが、社外取締役として果たすべき役割と考えています。



社外取締役 片桐 春美



タムロンのものづくり

Tamron's Unique Technology

技術革新への道

<http://www.tamron.co.jp/monozukuri/>

時代の波

21世紀に入り、カメラ産業に大きな変化の波が訪れた。急速なデジタル化によって、自動化・電子化が加速し、より精度の高い性能が要求されるようになってきたのである。それはカメラボディに限った話ではない。円筒形をしたレンズは、昔も今も一見それほど変わっていないように見える。しかし、その内部はかつてとは別物といっていいくらいに電子化され、複雑なメカニズムが組み込まれるようになっていったのである。こうした時代の波は、タムロンに大きな決断を迫るものでもあった。



複雑なメカニズムが組み込まれた手ブレ補正機構[VC]ユニット

大いなる決断

それまでと変わらず、革新的な高倍率ズームを世に送り出していくためには、タムロン自身が大きく変わる必要があった。2005年、高性能な手ブレ補正機構と、オートフォーカスのためのアクチュエーター（モーターなどの駆動装置）の内製化を目指し、要素技術開発を進めるための新組織、基礎開発本部が発足する。変わらないために、変わり続ける——これは、よりコンパクトに、より高画質に、タムロンならではの独創的なレンズを作り続けるための決断であった。



タムロン独自の「3コイル方式」による手ブレ補正機構の初期試作品

理想を追求するために

新しい技術をタムロン内部で開発するためには、各分野でのスペシャリストが必要だ。当初、10名弱で発足した基礎開発本部は、アクチュエーターや、それを制御するためのソフトウェアなどのスペシャリストたちを招き入れ、現在では総勢40名ほどで、緊密な連携をしながら開発に取り組むチームを構成している。内製化と大胆な組織編成の決断があったからこそ、そこから独創的な技術を組み込んだ画期的なレンズが、続々と生み出されることになったのである。

スペシャルサイトはこちら <http://www.tamron.co.jp/monozukuri/>



リング型超音波モーター[USD]を構成する各パーツ

**タムロンレンズ2製品が「EISAアワード」を受賞
13年連続受賞を達成**

28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036) および 70-210mm F/4 Di VC USD (Model A034) が、欧州で権威のある写真・映像製品の賞「EISAアワード」において各賞を受賞しました。これにより、タムロンは13年連続での受賞達成となります。



28-75mm F/2.8 Di III RXDが「DPReview Product of The Year Award」を受賞

28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036) が、海外大型レビューサイト DPReview の「Zoom Lens of The Year 2018」を受賞しました。



**デジタルカメラグランプリ2019において
28-75mm F/2.8 Di III RXDが「総合金賞」を受賞
SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD G2、
17-35mm F/2.8-4 Di OSDが「金賞」を受賞**

35mmフルサイズミラーレス一眼カメラ対応のソニーEマウント用大口径標準ズームレンズ 28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036) が、「デジタルカメラグランプリ2019」において最高位となる総合金賞<交換レンズ/ミラーレス>を受賞しました。さらに、SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A041) および 17-35mm F/2.8-4 Di OSD (Model A037) が、交換レンズ<サードパーティー/フルサイズ一眼用>部門の金賞を受賞しました。



新製品

SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A041)

超高画質、進化した大口径超広角ズームレンズ



新製品

17-35mm F/2.8-4 Di OSD (Model A037)

クラストップレベルの高性能・高画質を達成した大口径標準ズームレンズ



コンパクトさと高い描写性能の両立を実現

女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」とスポンサー契約を締結

タムロンは2018年8月、北海道北見市常呂町に本拠地を置く女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」とスポンサー契約を締結しました。



「ロコ・ソラーレ」は、2010年8月に結成されたカーリングチームです。2016年2月に日本カーリング選手権大会で初優勝後、国内随一の戦績を収め、2018年平昌五輪には日本代表として出場し、カーリング競技史上初の銅メダルを獲得しました。地元の常呂から太陽のように輝きを持ったチームになるよう「太陽の常呂っ子」という意味を込めて付けられたチーム名のもと、「常呂町から世界へ」という想いを胸に活動しています。日本の光学機器メーカーとしてさまざまなレンズ製品を世界にお届けするタムロンはチームの想いに共感し、このたびスポンサー契約を締結させていただくことになりました。

タムロンは、さらなる高みを目指す「ロコ・ソラーレ」を支援するとともに、写真の力でスポーツの魅力と可能性をお伝えしてまいります。



ロコ・ソラーレ オフィシャルサイト : <http://www.locosolare.jp/index.html>

受賞
第21回環境コミュニケーション大賞「優良賞」を4年連続受賞



特機関連
グローバルシャッター、カメラモジュール開発



受賞
70-210mm F/4 Di VC USD (Model A034)、18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028) 2機種が「TIPAアワード」を同時受賞(5年連続受賞)



受賞
デジタルカメラグランプリ2018 SUMMERにおいて100-400mm F/4.5-6.3 Di VC USD (Model A035) が総合金賞を受賞



受賞
28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036)、70-210mm F/4 Di VC USD (Model A034) の2機種が「EISAアワード」を受賞

スポンサー
女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」とスポンサー契約を締結

出展
Security Essen 2018 出展

写真関連
SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A041) を発売
写真関連
17-35mm F/2.8-4 Di OSD (Model A037) を発売

受賞
デジタルカメラグランプリ2019にて、28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036) が総合金賞を受賞。
SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A041)、17-35mm F/2.8-4 Di OSD (Model A037) の2機種が金賞を受賞

出展
国際画像機器展 2018 出展
受賞
28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036) が「DPReview Awards 2018」を受賞
出展
Vision Show 2018 出展

2018

1月
January

2月
February

3月
March

4月
April

5月
May

6月
June

7月
July

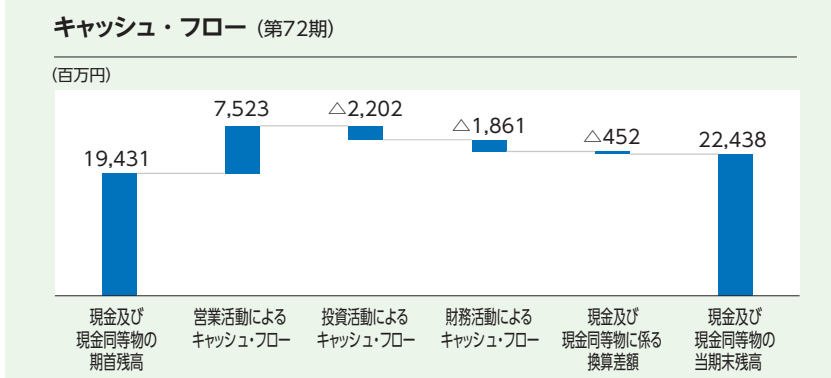
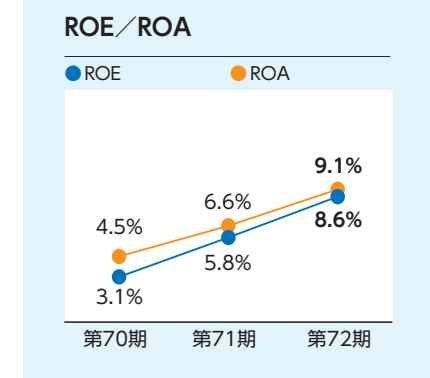
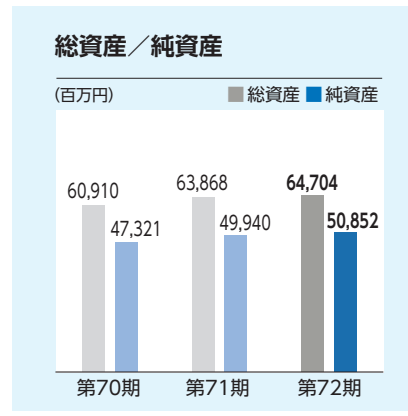
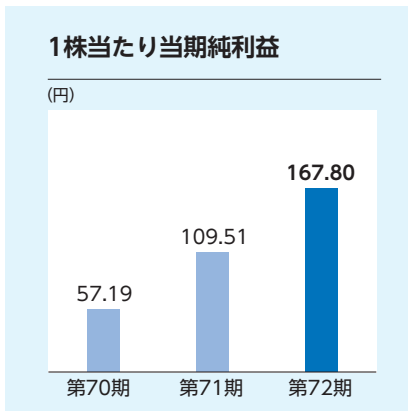
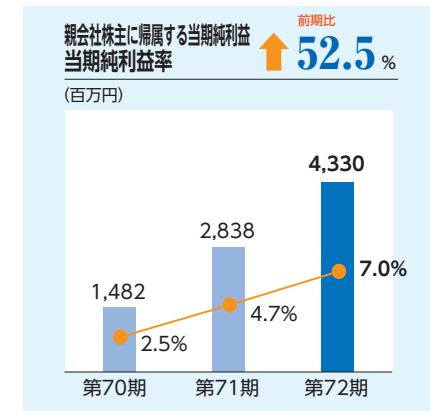
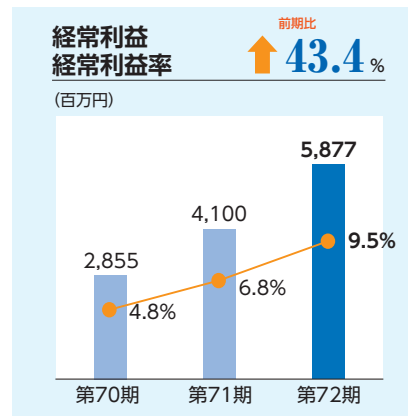
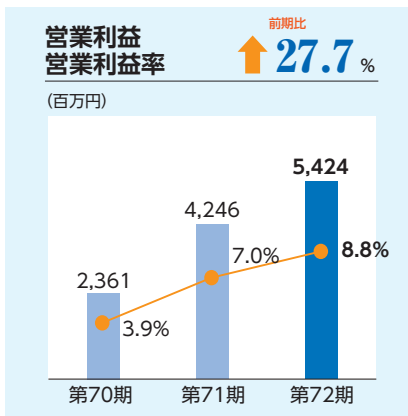
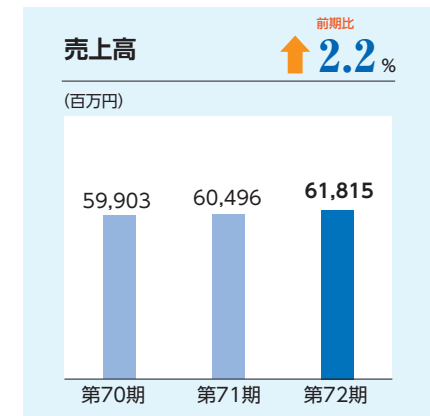
8月
August

9月
September

10月
October

11月
November

12月
December



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 当期 (2018年12月31日現在) | 前期 (2017年12月31日現在) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 48,091 | 45,392 |
| 固定資産 | 16,613 | 18,476 |
| 資産合計 | 64,704 | 63,868 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 11,620 | 11,931 |
| 固定負債 | 2,231 | 1,996 |
| 負債合計 | 13,852 | 13,928 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 48,433 | 45,829 |
| その他の包括利益累計額 | 2,418 | 4,110 |
| 純資産合計 | 50,852 | 49,940 |
| 負債純資産合計 | 64,704 | 63,868 |

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 当期 (2018年1月1日から 2018年12月31日まで) | 前期 (2017年1月1日から 2017年12月31日まで) |
|-----------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高 | 61,815 | 60,496 |
| 売上原価 | 39,910 | 39,899 |
| 売上総利益 | 21,905 | 20,596 |
| 販売費及び一般管理費 | 16,481 | 16,350 |
| 営業利益 | 5,424 | 4,246 |
| 営業外収益 | 584 | 332 |
| 営業外費用 | 131 | 478 |
| 経常利益 | 5,877 | 4,100 |
| 特別利益 | 85 | 122 |
| 税金等調整前当期純利益 | 5,963 | 4,222 |
| 法人税等 | 1,633 | 1,383 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 4,330 | 2,838 |

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 当期 (2018年1月1日から 2018年12月31日まで) | 前期 (2017年1月1日から 2017年12月31日まで) |
|---------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,523 | 7,661 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,202 | △2,174 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,861 | △2,351 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △452 | 265 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 3,006 | 3,401 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 19,431 | 16,030 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 22,438 | 19,431 |

Point

流動資産
受取手形及び売掛金が6億54百万円減少した一方、現金及び預金が30億6百万円増加したこと等により、流動資産は前期末に比べて26億98百万円増加しました。

流動負債
短期借入金が1億45百万円減少したこと等により、流動負債は前期末に比べて3億11百万円減少しました。

純資産
為替換算調整勘定が12億89百万円減少した一方、利益剰余金が30億34百万円増加したこと等により、純資産は前期末に比べて9億12百万円増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益が59億63百万円、減価償却費が31億64百万円、仕入債務の増加額が6億8百万円となった一方、売上債権の増加額が65百万円、たな卸資産の増加額が6億97百万円となったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローは75億23百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得による支出が21億54百万円となったこと等により、投資活動によるキャッシュ・フローは22億2百万円の支出となりました。

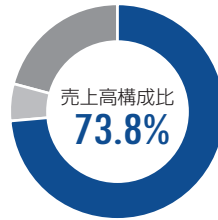
財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入金の返済による支出が5億18百万円、配当金の支払額が12億96百万円あったこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローは18億61百万円の支出となりました。

セグメント別事業の概況

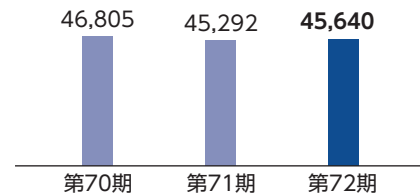
写真関連事業

レンズ交換式カメラ市場は減少となりましたが、OEM関連は前年並みの売上高を維持し、自社ブランドでは米国での販売が好調に推移したことや2017年および2018年に発売した新製品の販売増により増収となりました。特に2018年5月に発売した自社ブランド新製品の35mmフルサイズミラーレス一眼カメラ対応大口径標準ズームレンズ28-75mm F/2.8 RXD (A036)は、高画質と大口径ならではの美しいボケ味を両立したこだわりの描写性能等により、発売当初から好調な販売が継続いたしました。なお、28-75mm F/2.8 RXD (A036)と70-210mm F/4 VC USD (A034)がEISAアワードを同時受賞し、当社レンズの同賞13年連続受賞を果たす等、高い評価も得ることができました。

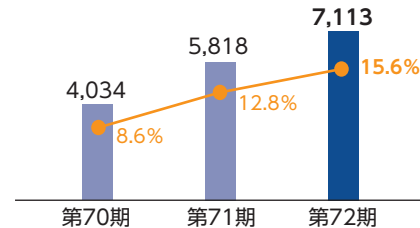
このような結果、写真関連事業の売上高は456億40百万円(前期比0.8%増)、営業利益は71億13百万円(前期比22.3%増)となりました。



売上高(百万円)

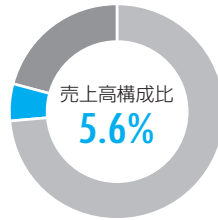


営業利益(百万円) / 営業利益率

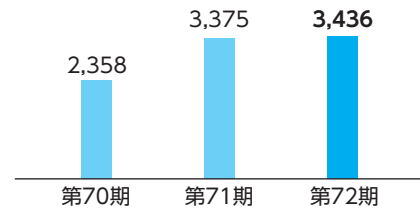


レンズ関連事業

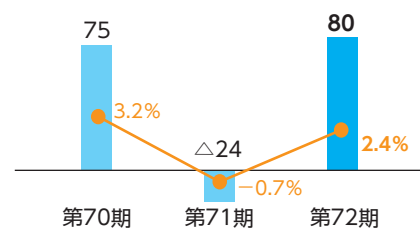
コンパクトデジタルカメラ用レンズやビデオカメラ用レンズは市場縮小に伴い減収となりましたが、ドローン用レンズが受注機種増加により下半期から本格的に売上を拡大し、大幅増収となりました。このような結果、レンズ関連事業の売上高は34億36百万円(前期比1.8%増)、営業利益は80百万円(前期は営業損失24百万円)となりました。



売上高(百万円)



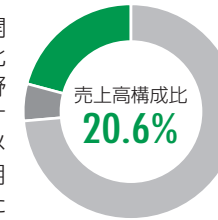
営業利益(百万円) / 営業利益率



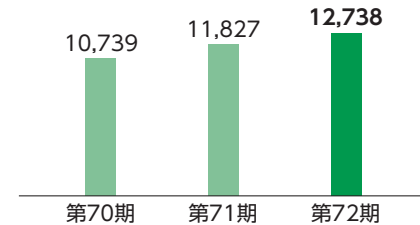
特機関連事業

車載カメラ用レンズは要素技術開発の推進や生産・品質管理面の強化等を図ってきたことにより、注力分野のセンシング用で売上を伸ばし、2ケタの増収となりました。また、監視カメラ用レンズやFA / マシンビジョン用レンズは価格競争の影響を受けましたが、日本や欧州での販売が好調に推移し、カメラモジュールの販売も第4四半期から本格化してきたことにより増収となりました。

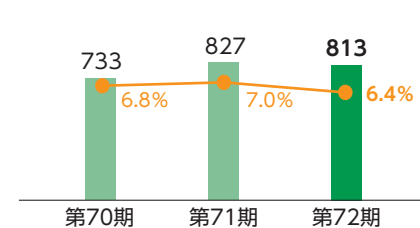
このような結果、特機関連事業の売上高は127億38百万円(前期比7.7%増)、営業利益は8億13百万円(前期比1.8%減)となりました。



売上高(百万円)



営業利益(百万円) / 営業利益率



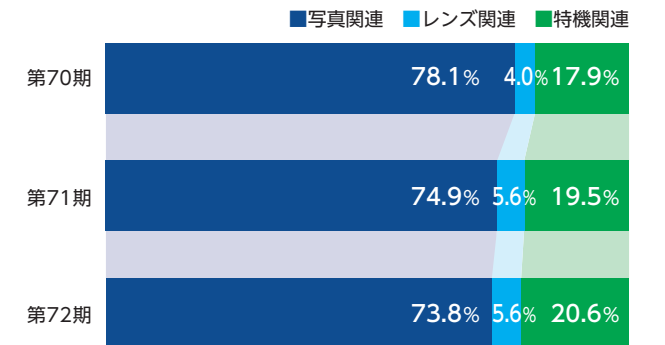
セグメント別業績の推移

(百万円)

| | 第70期 | 第71期 | 第72期 | |
|-------------|-----------------|---------|---------|--------|
| 写真関連 | 売上高 | 46,805 | 45,292 | 45,640 |
| | セグメント利益 | 4,034 | 5,818 | 7,113 |
| レンズ関連 | 売上高 | 2,358 | 3,375 | 3,436 |
| | セグメント利益または損失(△) | 75 | △24 | 80 |
| 特機関連 | 売上高 | 10,739 | 11,827 | 12,738 |
| | セグメント利益 | 733 | 827 | 813 |
| セグメント利益の調整額 | △ 2,482 | △ 2,376 | △ 2,583 | |
| 連結営業利益 | 2,361 | 4,246 | 5,424 | |

※セグメント利益の調整額は、当社の総務、経理等の本社部門に係わる配賦不能営業費用等です。

連結売上高構成比率の推移





フォトコンテスト開催報告

第11回 タムロン鉄道風景コンテスト 私の好きな鉄道風景ベストショット

当社は鉄道のまち大宮(さいたま市)に本社を置く企業として、さいたま市、さいたま市教育委員会、さいたま商工会議所のご後援をいただき、地域の活性化と鉄道文化の振興に貢献することを目的として「タムロン鉄道風景コンテスト」を開催しています。

今回は応募のべ人数1,914名、応募総作品数7,460点と、応募点数、のべ人数ともに過去最高となるご応募をいただき、まことにありがとうございました。

鉄道写真家 広田尚敬氏と、フォトライター「鉄子」として人気の矢野直美氏により厳正な審査が行われ、全87名の方が入賞されました。



一般の部 大賞受賞作品
「Smile」 和田 浩 様



小・中・高校生の部 大賞受賞作品
「なつのはなのいろ」 玉田 航也 様

第15回 タムロン・マクロレンズフォトコンテスト



グランプリ 受賞作品
「3匹の蝶」 関根 博文 様

マクロレンズフォトコンテストは、マクロレンズのPR及び普及を目的に2004年から毎年開催しているものです。このコンテストの特徴は、当社のマクロレンズはもちろんのこと、マクロレンズであればメーカーを問わず、旧モデルも含めて広く作品を募集していることにあります。分野はネイチャー部門とノンジャンル部門を設定しています。

プリント作品及びネットによるご応募の合計で、応募人数 1,613名、応募総作品数4,954点と、たくさんのご応募をいただき、まことにありがとうございました。審査にあたっては、ネイチャーの部は石井孝親先生に、ノンジャンルの部は岡本洋子先生に行っていたいただき、両先生の厳正なる審査の結果、全29名の方が入賞されました。

会社概要

| | |
|------|---------------------|
| 商号 | 株式会社タムロン |
| 創業 | 1950年11月1日 |
| 設立 | 1952年10月27日 |
| 本社 | 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地 |
| 資本金 | 69億23百万円 |
| 従業員数 | 5,046名(連結) |

役員

2019年3月27日現在

| | |
|---------|--------|
| 代表取締役社長 | 鯨坂 司郎 |
| 取締役副社長 | 桜庭 省吾 |
| 取締役副社長 | 阿保 正行 |
| 専務取締役 | 川鍋 宏 |
| 常務取締役 | 増成 弘治 |
| 常務取締役 | 北爪 泰樹 |
| 取締役 | 大塚 博司 |
| 取締役 | 張 勝海 |
| 取締役 | 大谷 真人 |
| 取締役 | 岡安 朋英 |
| 取締役 | 佐藤 勇一* |
| 取締役 | 片桐 春美* |
| 常勤監査役 | 手塚 努 |
| 常勤監査役 | 平山 隆志* |
| 監査役 | 利根 忠博* |
| 監査役 | 奈良 正哉* |

注1. *印の取締役は社外取締役、監査役は社外監査役であります。
注2. 当社は、取締役 佐藤 勇一、取締役 片桐 春美、監査役 平山 隆志及び監査役 奈良 正哉を東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届け出しています。

株式の状況

| | |
|----------|----------------|
| 発行可能株式総数 | 80,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 25,950,000株 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主数 | 4,930名 ※単元未満除く |

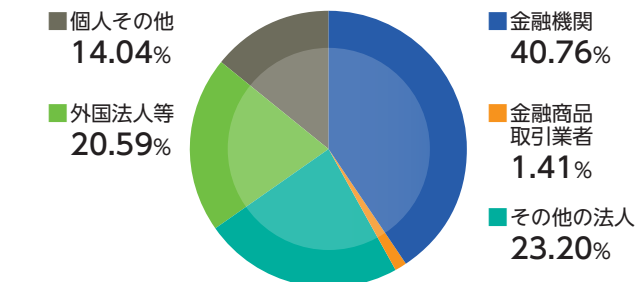
■大株主

| 株主名 | 所有株式数(千株) | 持株比率 |
|---|-----------|--------|
| 株式会社ニューウェル | 4,898 | 18.89% |
| ソニー株式会社 | 3,129 | 12.07% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,558 | 6.01% |
| 株式会社埼玉りそな銀行 | 1,122 | 4.33% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 1,038 | 4.00% |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 893 | 3.44% |
| 日本生命保険相互会社 | 580 | 2.23% |
| GOVERNMENT OF NORWAY | 542 | 2.09% |
| BNP PARIBAS SEC SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ ABERDEEN GLOBAL CLIENT ASSETS | 460 | 1.77% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 346 | 1.33% |

注. ソニー株式会社の持株数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。

■株式所有者別分布

※単元未満除く




株主メモ


- 事業年度** 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会** 毎年3月
- 基準日** 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日
- 単元株式数** 100株
- 株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先
(電話照会先)** 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
※ 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で
行っております。
- 公告方法** 電子公告 ※ ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本
経済新聞に掲載して行います。
- 当社ホームページ <http://www.tamron.co.jp>

お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等の申出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払について**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ソーシャルメディア 公式アカウント

 <https://twitter.com/TamronJP>
タムロン製品・サービスに関する最新情報やイベント情報、企業情報など幅広い情報をいち早くお届けします。

 <https://www.facebook.com/tamron.highpowerzoom>
写真レンズに関する製品情報の他、最新のHPコンテンツ紹介、フォトコンテストや各種イベント・キャンペーン情報を発信しています。

 <https://www.instagram.com/tamronjp/>
タムロンレンズで撮影された写真をアップしていきます。ユーザー参加型のイベントの他、#tamronを付けて投稿頂いた写真には積極的にいいねさせていただきます。

 <https://www.youtube.com/user/tamronpr>
CSR活動や、タムロンのものづくり、写真家による製品レビューなど、タムロンの取り組みを動画で発信しています。

ホームページのご紹介

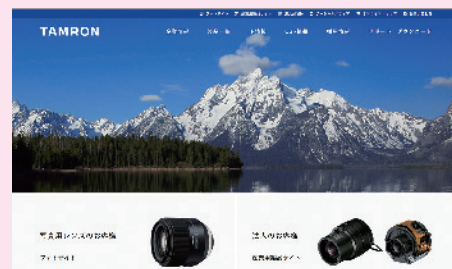
当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。
ぜひご活用ください。

主な掲載コンテンツ

- 企業情報
- 製品一覧
- IR情報
- CSR情報
- 採用情報
- サポート・ダウンロード

コーポレートサイト

URL <http://www.tamron.co.jp>



フォトサイト (写真レンズ用フォトサイト)

URL <http://www.tamron.jp>



株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289 <http://www.tamron.co.jp>
■ IR情報関連に関するお問い合わせ：経営企画室
TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282
e-mail: kabushiki@tamron.co.jp

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK

本冊子は環境保全のため、植物油インキで印刷しています。